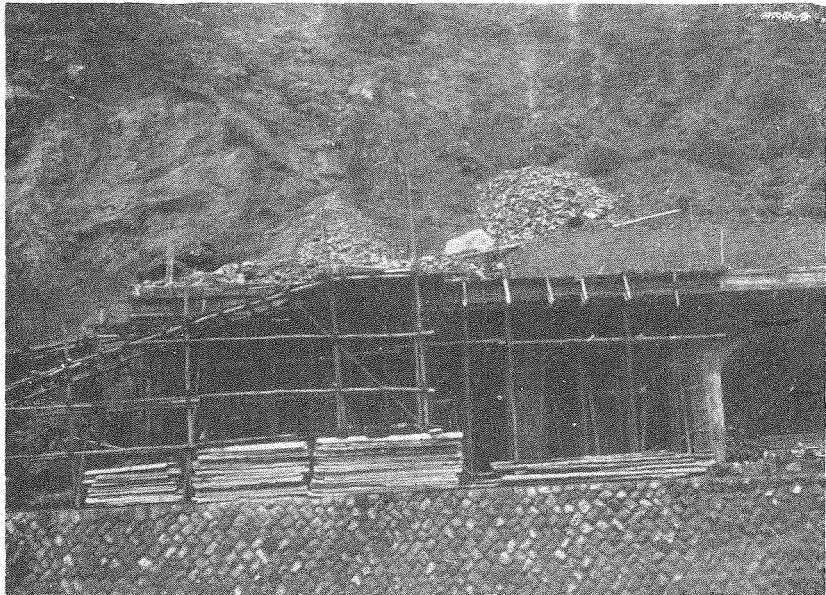


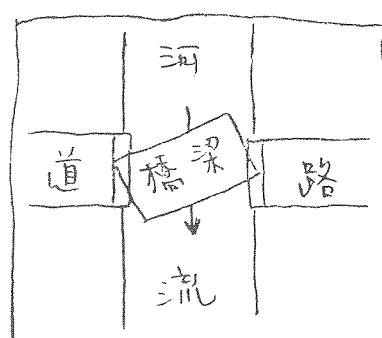
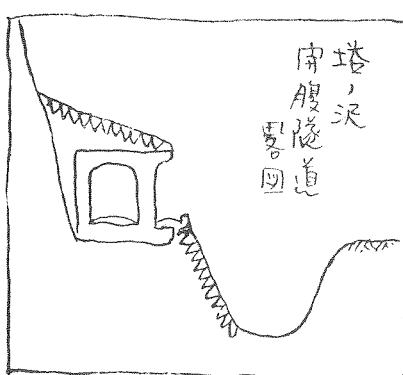
## 伊豆地震と土木工作物 の被害ところどころ

(本編は内務省土木試験所技師松村孫治氏の撮)  
影寫真による



(1) 箱根塔ノ澤開腹隧道 神奈川縣が施工せる箱根塔ノ澤の早川沿岸に國道の一部をなすもので、右方は既に竣工した部分である。中次屋根上に白く見ゆるは地震の爲に山腹より落下した石であるか、當時の激震に對しても何等の被害なく、完全に耐震構造の長所を發揮した一例である。因に開腹隧道の寸法は

車道幅(有効)	18尺	歩道幅	6尺 (柱の外側に設く)
路面上の天井高	16.2尺 (最高17尺)	延長	273尺
縦間	15尺	柱の大さ断面	3尺角
山側の壁厚	6寸		



算眞(3)の見取圖

(2) 丹那断層に於ける地表面上の  
Horizontal Displa  
cement  
A.とBは地震前は  
連結せる部分なり。  
約2.5mの横ズレ。



(3)  
丹那盆地に於ける橋梁墜落。





(4) 大仁橋 左岸の橋臺にして、橋臺多少前方へ引き出されてゐる。  
裏込と橋臺との間隙約7.m。橋桁の縦の方向に震動を受けたので、下のローラーが半廻轉程してゐる。

(5) 大門橋。

A, Bの橋脚沈下せり。



(6) 松原橋。

下流より寫したる全景  
震動方向は横である。

(7) 松原橋

右岸より橋の下部を寫す。  
上部構造の水平力に堪えず、鎌が外れ  
て橋受木が荷重共傾いてゐる。



(8) 松原橋の取付盛土道路に於ける路面  
上の亀裂、最大幅約30cm。

裏込は砂交り粘土、橋梁の被害大  
なり。



(9) 大門橋の取付

盛土道路に於ける側  
壁の波壊。

裏込は砂、

橋梁の被害は渺  
し。